

平成23年度環境活動レポート

(対象期間：平成23年4月～平成24年3月)



作成日：平成24年11月

銀河建設株式会社

目 次

- I　環境方針
- II　組織の概要
- III　環境目標とその実績
- IV　環境活動計画、取組結果とその評価、次年度以降の取組内容
- V　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無
- VI　代表者による全体評価と見直しの結果

I 環境方針

〈環境理念〉

銀河建設株式会社は、■市の中北部（■市役所の山側）にあり■年以来、建設業に係る企業経営に取組んできました。当社は、ますます深刻化する地球温暖化など、地球規模の環境問題への対応が人類共通の重要課題との認識に立ち、建設業の事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的、積極的に、環境保全活動に取組みます。

〈環境保全への行動指針〉

1. 地球温暖化防止のために、二酸化炭素の排出削減を推進します。
 - ① 会社及び建設現場等における電力、燃料等の消費に伴う二酸化炭素排出量削減
 - ② 「快適で暮らしやすい低炭素社会の形成」を目指します。
2. 限りある資源を有効活用するため、廃棄物削減と資源の有効利用を推進します。
 - ①建設副産物について、分別・回収の徹底による発生抑制と資源の有効利用に努めます。
 - ②産業廃棄物の削減に努めます。
 - ③事務所等の一般廃棄物については、削減と分別に努めます。
3. 水資源の有効活用のために、節水に取り組みます。
 - ①事務所等における節水に努めます。
 - ②建設現場における適正な水利用に努めます。
4. 環境に配慮した製品及びサービスの推進に努めます。
 - ①建設現場では、梱包材の少ない材料納入に努めます。
5. 事務用品、再生資材等、グリーン購入に努めます。
6. 地域の環境保全に資するために、環境に配慮したクリーン事業活動に努めます。
 - ①建設現場における騒音、振動、粉じん等の低減化に取り組みます。
 - ②建設現場における適正な排水処理に努めます。
7. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
8. 環境活動レポートの公表など、地域との環境コミュニケーションに努めます。

制定日：平成 23 年 6月 20 日

銀河建設株式会社

代表取締役

Ⅱ 組織の概要

1 名称及び代表者名

銀河建設株式会社

代表取締役 [REDACTED]

2 所在地

本 社 〒 [REDACTED] 県 [REDACTED] 市 [REDACTED] 丁目 [REDACTED]
TEL [REDACTED] FAX [REDACTED]
E-mail [REDACTED]

資材倉庫 〒 [REDACTED] 県 [REDACTED] 市 [REDACTED] 字 [REDACTED]

3 環境管理責任者及び担当者氏名

責任者 建築部次長 [REDACTED]
担当者 全職員

4 事業活動の内容

建設業

許可番号 [REDACTED] 県知事 ([REDACTED]) 第 [REDACTED] 号
許可年月日 平成 [REDACTED] 年

建設業の種類 土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、石工事業
屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業
舗装工事業、しゅんせつ工事業、板金工事業、塗装工事業
防水工事業、内装仕上工事業、建具工事業、水道施設工事業

5 事業規模

資本金	[REDACTED] 円
売上高	[REDACTED] 円
従業員数（平成24年4月現在）	10人
述べ床面積	121m ²
資材倉庫の述べ床面積	64m ²

6 事業年度

4月～翌年3月

7 対象範囲

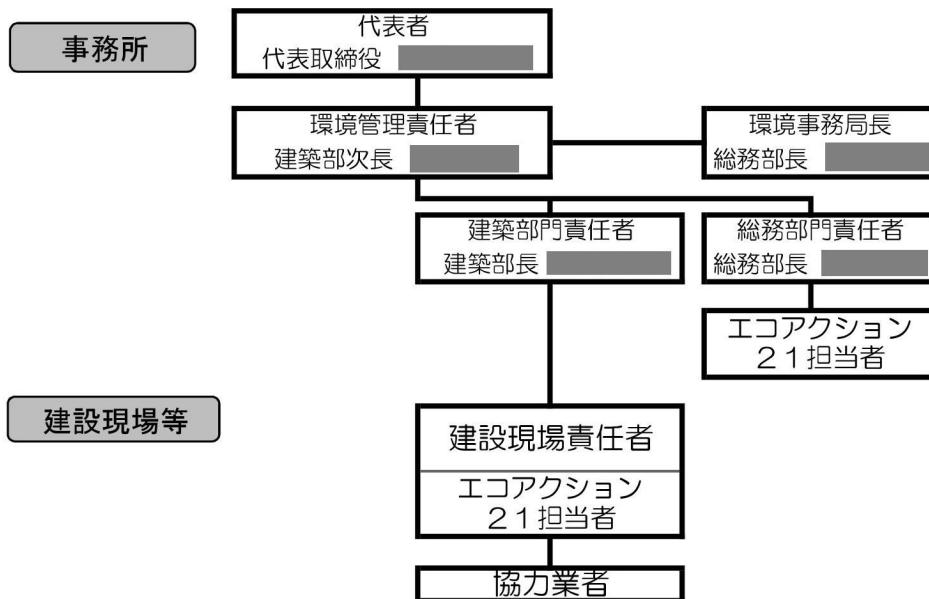
全組織全活動とする

8 環境活動レポートの対象期間

平成23年4月から平成24年3月まで

9. EA21実施体制図

作成：平成22年6月27日



環境経営システム 役割・責任・権限表

役割・責任・権限	
代表者（社長）	① 環境経営に関する統括責任。 ② 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ③ 環境管理責任者を任命。 ④ 代表者として、全体の評価と見直しを実施。
環境管理責任者 建築部次長	① 環境経営システムの構築、実施、管理。 ② 問題点の是正、予防処置の指示・確認。
環境事務局 総務部長	① 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ② 環境目標、環境活動計画書原案の作成 ③ 環境活動チェック表等の実績集計 ④ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部門責任者及び現場責任者 建築部門責任者 建築部次長 総務部門責任者 総務部長	① 所管事項について環境経営システムを実施し、維持する ② 環境方針の部内への周知。 ③ 教育訓練の実施。 ④ 環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ⑤ 緊急事態への対応のための手順書作成テスト、訓練の実施、記録の作成。 ⑥ 問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	① 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 ② 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

III 環境目標とその実績

1 主な環境負荷の実績

表1、主な環境負荷等の実績

項目		単位	平成22年度 (基準年)	備考
二酸化炭素排出量	電力	使用量	Kwh	11,823.0
		二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	5,533.2
	ガソリン	使用量	ℓ	5,285.0
		二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	12,261.2
	軽油	使用量	ℓ	3,190.0
		二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	8,262.1
	灯油	使用量	ℓ	1,903.0
		二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	4,742.1
	LPG	使用量	kg	29.6
		二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	88.9
廃棄物排出量	一般廃棄物		kg	8,144.0
	産業廃棄物		t	134.9
総排水量		m ³	128.0	
グリーン購入		万円	30.0	

※グリーン購入については、平成23年度を基準とする

2 環境目標の設定

当社では、平成22年度を基準年度とし中長期及び単年度の環境目標を、表2のとおり設定し、環境活動に取組んでおります。

表2 環境目標 基準年度(平成22年度) 比の削減(増加)率(%)

項目	単位	基準年度(平成22年度) 比の削減(増加)率(%)		
		平成23年度	平成24年度	平成25年度
二酸化炭素排出量	%	-2	-3	-4
	kg-CO ₂	5,422.5	5,367.2	5,311.8
ガソリン	%	-2	-3	-4
	kg-CO ₂	12,016.0	11,893.4	11,770.8
軽油	%	-2	-3	-4
	kg-CO ₂	8,096.9	8,014.2	7,931.6
灯油	%	-2	-3	-4
	kg-CO ₂	4,647.3	4,599.9	4,552.5
LPG	%	-2	-3	-4
	kg-CO ₂	87.1	86.2	85.3
廃棄物排出量	一般廃棄物	%	-2	-3
		kg	7,981.1	7,899.7
	産業廃棄物	%	-1	-2
		t	133.6	132.2
総排水量		%	-2	-3
		m ³	125.4	124.2
グリーン購入		%	+1	+2
		万円	30.0	30.3
			30.3	30.6

※グリーン購入については、平成23年度を基準とする

◎化学物質は取り扱っていない

3. 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、平成23年4月から平成24年3月までの実績について評価結果を報告いたします。

表3 当該年度の環境目標の達成状況等

項目	単位	基準年度		当該年度(平成23年4月～平成24年3月)		環境目標の達成状況		
		平成22年度		目標値	実績値	達成率	判定	
二酸化炭素排出量	電力 使用量	Kwh	11,823.0	-2.0 %	11,586.5	11,044.0	-6.6 %	○
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	5,533.2		5,422.5	5,168.6		
	ガソリン 使用量	ℓ	5,285.0	-2.0 %	5,179.3	8,632.5	63.3 %	×
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	12,261.2		12,016.0	20,027.4		
	軽油 使用量	ℓ	3,189.8	-2.0 %	3,126.0	3,022.3	-5.3 %	○
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	8,261.6		8,096.4	7,827.8		
	灯油 使用量	ℓ	1,903.0	-2.0 %	1,864.9	2,151.0	13.0 %	×
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	4,742.1		4,647.3	5,360.1		
	LPG 使用量	kg	29.6	-2.0 %	29.0	4.5	-84.8 %	○
	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	88.9		87.1	13.5		
廃棄物排出量	一般廃棄物	kg	8,144.0	-2.0 %	7,981.1	8,680.0	6.6 %	×
	産業廃棄物	t	134.9	-1.0 %	133.5	248.6	84.3 %	×
総排水量		m ³	128.0	-2.0 %	125.4	112.0	-12.5 %	○
グリーン購入※2		万円	30	—	—	—	—	—

※1 二酸化炭素排出量（電力）の算定に使用した排出係数は、0.468kg-CO₂/KWhです。

※2 グリーン購入の基準年度は平成23年度とする。

◎ 化学物質は取り扱っていない。

(評価)

- ① ガソリン
大雪の為の雪害により補修工事が増加した為、使用量が多くなったと考えられる。
- ② LPG
ガスコンロを無くした為、使用量が減ったと考えられる。
- ③ 産業廃棄物
改修工事が多かった為、排出量が増えたと考えられる。

IV. 環境活動計画、取組結果とその評価、 次年度以降の取組内容

1. 環境活動計画、取組結果とその評価

環境方針	環境目標項目	取組内容	実施状況の評価
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素排出量の削減	① 事務所の蛍光灯を直管形LEDランプ搭載器具に変えた。 ② パソコン、コピー機等のOA機器は、省電力設定をしている。 ③ 夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源を切っている。 ④ FAXは自動印刷ではなく、パソコンに記憶し、必要なものだけミスコピー用紙に印刷する。 ⑤	○ ○ ○ ○ ○
		① 冬季以外は給湯を停止している。 ② 燃料消費の少ない運搬経路や資材搬入経路を検討し、採用している ③ 社用車のタイヤ空気圧の適正維持を行っている ④ 社用車・建設機械等の省エネ運転を推進している ⑤ 社用車・建設機械等のアイドリングストップを行っている	○ △ △ △ ○
		① 空調を必要な区域・時間帯に限定している。 ② 使用していない部屋は、空調を停止している。 ③ ④ ⑤	○ ○ ○
		① 商品の購入時には、簡易梱包のものを優先的に購入するようにする。 ② 発生したゴミは可能な限り、圧縮等を行い、減量している。 ③ A4、A3のコピー用紙は、可能な限り裏面も使用している。（社内用） ④ ⑤	○ ○ ○
		① 詰め替え可能な製品の利用や備品の修理等により、製品等の長期使用を進めている。 ② 回収した資源ゴミがリサイクルされるよう確認している。 ③ ④ ⑤	△ △
		① コピー機、パソコン、プリンター等について、リサイクルしやすい素材を使用した製品を購入している。 ② ③ ④ ⑤	△
		① 手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行している ② 社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車する場合は節水を励行している ③ ④ ⑤	△ △
		① 有害物質や有機汚濁物質（生ごみ等）ができるだけ混入しない様にしている。 ② ③ ④ ⑤	○
		① 有害性の化学物質の表示をしている。 ② 屋外での除草剤、殺虫剤、の使用の削減に努めている。 ③ ④ ⑤	△/X
排水		① 再生可能、有害性の化学物質の含有量が少ない等の建設資材等を購入している ② 環境ラベル認定等製品を優先的に購入している ③ 省エネルギー基準適合製品を購入している ④ 再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用している ⑤ 節水型の家電製品、水洗トイレ等を積極的に購入している	△ △ ○ ○
の化学削減物質	化学物質の抑制及び管理の徹底	① 敷地内、壁面、屋上等の緑化を指向している。 ② 自転車の利用等（通勤時）により、社用車の使用削減に努めている。 ③ 建築物・工作物等の長寿命化を指向している ④ 建築物・工作物等の使用過程でのエネルギーの削減と省資源化を指向している ⑤	X △ △ △ △
グリーン購入		○：評価出来る、△：ますます評価出来る、×：評価できない	
自らが施工・販売・提供する製品及びサービスに関する取組推進		○：評価出来る、△：ますます評価出来る、×：評価できない	

2. 次年度の環境活動計画取組内容

取り組み内容は、次年度も引き続き変更しないものとする。

3. 環境活動の状況



節電の表示



プリンター節電の表示

V 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける環境関連法規等について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。また、過去3年間、関係当局からの違反等の指導、住民等からの苦情、訴訟について、問題ありません。

VI 代表者による全体評価と見直しの結果

平成23年度の環境目標の達成状況判定で、×の項目が発生している。
その原因は、当該年度の冬季の気候が、平年を大きく上回る降雪と低温であったことが実績値として現れたものと考えられる。
つまり、雪害補修工事の規模及び件数が、例年をはるかに超える数量となった為に車両及び現場での燃料の使用量が増えて、ガソリン及び灯油の使用量の目標値を超ってしまった。
また、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量の項目に関しても同上の事由が影響している。これからの事業活動で、環境負荷の低減を図っていきたい。
平成24年度からは、地域への社会貢献の一貫として、■銀行と一緒に本社周辺（■市 ■丁目全域）の道路清掃活動を行う。（4月～11月）